

厚生労働科学研究費補助金 難治性疾患等政策研究事業(難治性疾患政策研究事業)
分担研究報告書

圧迫性頸髄症手術前後の転倒による症状悪化に関する検討の進捗状況

研究分担者 木村 敦 自治医科大学大学整形外科講師

竹下 克志 自治医科大学整形外科教授

星地 亜都司 三井記念病院整形外科部長

研究要旨 OPLL による圧迫性頸髄症患者では、歩行バランスの低下による転倒の危険性が増大しており、転倒時の比較的軽微な外力による神経症状悪化が問題となる。脊髄除圧術は重要な治療の選択肢であるが、手術治療が転倒の頻度をどの程度減少させるのか、また実際に転倒が発生した際に症状悪化を予防しているのかについて十分な検討が行われていない。こうした未解決の疑問に答え、圧迫性頸髄症に対する除圧術の意義を明らかにする目的で多施設共同研究を提案した。

A. 研究目的

圧迫性頸髄症患者において、手術治療前後の転倒の頻度、および転倒時に伴う神経症状悪化の頻度を明らかにすること。

B. 研究方法

まず1年間で後ろ向きの研究を行い、その結果を参考として、今後前向きの研究を計画する方針とした。対象は2012年1月から2年間に本研究事業の協力施設において手術治療を受けた圧迫性頸髄症患者(頸椎症性脊髄症を含む)とした。エントリー期間は2014年11月から1年間とした。

まず自治医科大学臨床研究倫理委員会に対して臨床研究許可申請を行い、承認を得た。現在までに11の研究施設より参加表明を得ている。

まず医師用と患者用のデータシートを作成した。医師用調査票の内容は年齢、性別などの基本情報に加え、OPLLの有無や頸椎アライメントなどの画像情報、術前後の転倒による症状悪化の有無などとした。

患者用調査票では術前後1年間の転倒の回数と転倒時の状況、症状悪化の有無、骨

折の有無などとした。また副次調査としてロコモ25を追加した。

以上の調査票を2014年11月上旬に各研究施設に対して送付した。

C. 研究結果、D. 考察、E. 結論

今後1年間で結果を集計して報告する。

F. 健康危険情報

総括研究報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし